

松 本

信大・秀峰・志学館授業で交流

中高大学生互いを刺激

松本地域の中高校生、大学生が海外文化や言語について発表し合う初のフォーラム「中高大でsekaiを考える」が11日、松本市で2日間の日程で始まった。昨年に教育連携協定を結び、授業や部活動で交流する信大文学部（松本市）の英語学専攻の学生と松本秀峰中等教育学校（同）の生徒を中心に、塩尻志学館高校（塩尻市）からも参加。初日は、信大生の指導を受けた秀峰生らが、総合学習で調べた成果を発表した。

初フォーラム始まる

信大文学部は、学生が同

中等教育学校を訪れ、国際理解を扱う総合学習や「外国語部」の活動を手伝うなど交流している。互いに発表して刺激し合おうと、昨年まで信大英語学専攻のみで開いていたフォーラムを拡大。同専攻OBが教員をしている塩尻志学館高にも参加を呼び掛

フォーラムで発表する松本秀峰中等教育学校の生徒たち



積は米国のほうが大きいのに、売り上げは日本の方が多いた。意外だった」などと発表した。同部1年の長原史枝さん（13）は「声の大きさ、目線、発表の進め方を信大生に学んだ。（昨春開校で）先輩がおらず、目上の人と話す機会にもなった」。

信大生は学部2年生から大学院生までが登壇。若者言葉の使い方は「つていうか」は会話の転換と展開を意味するなど指摘した。学部3年の黒岩美里さん（21）は「中学生に分かってもらえるよう具体例を入れるなど工夫した」と話していた。

12日は午前10時半から、まつもと市民芸術館で塩尻志学館高生や信大生が発表する。入場無料。